

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0173100371		
法人名	有限会社 プランタン東川		
事業所名	グループホーム プランタン東川		
所在地	上川郡東川町北町3丁目2番7号 (電話) 0166-82-5430		
評価機関名	(有) ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年1月29日	評価確定日	平成21年3月18日

【情報提供票より】 (20年10月 21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤6人, 非常勤14人, 常勤換算8.0人	

(2) 建物概要

建物構造	壁式鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1～2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000円	その他の経費(月額)	管理費他 5,500円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,200 円	

(4) 利用者の概要 (1月 29日現在)

利用者人数	18名	男性 10名	女性 8名
要介護1	1名	要介護2	7名
要介護3	5名	要介護4	1名
要介護5	2名	要支援2	2名
年齢	平均 78.8歳	最低 65歳	最高 90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	旭川ペインクリニック、大田内科消化器科クリニック、林歯科クリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは北海道最高峰旭岳を擁している東川町に建てられている。優れた自然環境の中にあり、とくに豊富に湧き出る美味しい地下水に利用者は食事に入浴にと恩恵を受けている。近くに福祉専門学校があり、カリキュラムの一環として週一回のサイクルで、職員と一緒に訪問し、学生たちと楽しいひと時を過ごしている。利用者にとっては外出の機会を確保できると共に、大いに刺激を受け、心身の活性化に役立っている。職員は理念でもある地域に支えられ、声なき声に耳を傾け寄り添い介護を実践し、今後も「美しく生きる」がモットーの東川町とともに歩むことへ努力している。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目については、「新しい理念の作成」「運営推進会議の開催」「各種研修への参加」「地域交流」「災害時の避難訓練の充実」など職員と共に検討を行ない、改善に向け今後のケアサービスに活かせる努力が続けられている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義や目的は職員は理解しており、管理者が中心となって自己評価に取り組んでいる。前回の改善項目については、職員と共に検討が行なわれ、今後のケアサービスに活かせる努力がなされている。外部評価後の検討も計画されている。また次回はユニット毎の自己評価の取り組みに期待する。</p>
	②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は利用者・家族・町内会長、町職員・職員等を構成員とし現在までに2回開催している。会議においては活動報告や内容説明、意見交換も行ないホームの運営に活かされている。報告や情報交換にとどまらず、現構成員のほかに見識者、地域住民、包括センター職員等の幅広い立場の人の参加により、率直な意見をいただき、防災協力依頼や事業運営に反映出来る内容での定期開催を今後も期待する。</p>
重点項目	③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>請求書や金銭出納の発送と共に、毎月担当スタッフからの手紙により、暮らしぶりを伝えている。職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気作りに努めている。要望内容については直ちに検討し、希望に添えるような対応が行なわれている。</p>
重点項目	④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域に根ざす大切さを認識しており、地域と馴染める生活作りに努めている。町内会に加入する事で積極的に行事に参加したり、回覧板等で地域の情報を集め、利用者とともに催事に参加している。利用者の持てる力を活かせるようにプランター菜園の手入れ、散歩により地域の係わりが楽しみとなるよう支援をしている。また、利用者は地域の福祉専門学校で週に一度開催されている「うるおいレク」への訪問で、学生達との交流を楽しみにしている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域に根付いた生活環境の中で安心した生活が送れる」「声なき声に耳を傾けその人らしい人生を支援する」と、管理者と職員が中心になって作りあげた新しい理念が、ホームの随所に掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の随所に運営理念が掲げられ、日々意識する事でケアサービスの実践に取り組んでいる。全体会議やミーティングで確認され、利用者や家族との係わりの中でも会話に盛り込んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に根ざす大切さを認識しており、地域と馴染める生活作りに努めている。町内会に加入する事で積極的に行事に参加したり、回覧板等で地域の情報を集め、利用者のニーズに合わせた催事に参加している。町内の福祉専門学校との交流も定着している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的は職員は理解しており、管理者が中心となって自己評価に取り組んでいる。前回の改善項目については、職員と共に検討が行なわれ、今後のケアサービスに活かせる努力がなされている。外部評価後の検討も計画されている。		

東川町 グループホーム プランタン東川

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者・家族・町内会長、町職員・職員等を構成員とし現在までに2回開催している。会議においては活動報告や内容説明、意見交換も行ないホームの運営に活かされている。	○	運営推進会議開催の目的は、報告や情報交換にとどまらず、現構成員のほかに見識者、地域住民、包括センター職員等の幅広い立場の人の参加により、率直な意見をいただき、防災協力依頼や事業運営に反映出来る内容での定期開催を今後も期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、ホームの状況報告や介護保険業務に関する相談など、適宜話し合いの機会を持ち信頼関係を大切にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書や金銭出納の発送と共に、毎月担当スタッフからの手紙により、暮らしぶりを伝えている。また、家族の来訪時に職員は、日常の様子や受診後の報告・経過についてを細かく伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置もあるが、職員は日頃から家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられるような雰囲気作りに努めている。要望内容については直ちに検討し、希望に添えるような対応が行なわれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は最小限に抑えるよう努力しており、最近では定着している。もし代わる場合は、日常生活の中で利用者と同顔馴染みになるよう工夫し、影響を防ぐよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成の重要性を認識しており、グループ全体でも研修予定が盛り込まれ、各種教育委員会の設置もある。常勤職員中心ではあるが、職員一人ひとりの知識や経験に応じた外部研修にも交替で参加し、参加後は職員全体で報告が行なわれ、共有も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道グループホーム協議会に加入し、各種の研修会には積極的に参加し情報収集を行っている。系列ホーム間の情報交換や地域の研修参加により、同業者間での情報収集も行ないサービスの質向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者宅の訪問や入院中の利用者・家族と面談し、詳しく説明を行ない、その後ホームに見学に来ていただくようにしている。体験により職員と顔馴染みになり、ホームの雰囲気に馴染んでいただけよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、活躍できる場面づくりの支援が行なわれている。利用者から生活の知恵や料理の味付けや編み物を教わったり、昔話から励まされたりしながら、共に支え合う関係が築かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式シートの一部使用により、入居時には利用者の生活歴等の情報や心身の状況を収集している。入居後も職員が感じ取った利用者の思いや気付きを書き込み、気持ちに答えられる実践ケアに取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は毎日の記録を、利用者主体のあり方の記載に変更することで状況把握に努め、日常のケアに活かせる取り組みをしている。計画には家族の要望を取り入れ、職員が意見を出し合い介護サービス計画を作成している。	○	利用者の生活目標に応じた対応が、実践されているかについての記録は、評価や検討の場面で重要な要素となるので、記録については管理者も今後の検討課題と捉えており、介護計画書に連動した記載が出来る取り組みを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に6ヵ月に1度の見直しを行なっている。日常経過記録の参考でカンファレンスを行ない検討している。利用者の状態変化に伴い話し合う事で修正、新たな介護計画を作成し、作成後は家族に説明を行ない確認もされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎やドライブ、必要品の買物・行きたい所への送迎、一時帰省など、利用者の希望に応じた柔軟な支援をしている。また主治医より他科の受診依頼時にも適切に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員は利用者の希望する医療機関へ定期的に通院同行し、状態の報告、聞き取りを行ない家族に報告している。ホームでは協力医療機関との提携により、日常的に健康管理が継続して行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	運営規定や契約書にそれぞれ緊急時の対応や医療連携体制と対応についての記載、説明がなされているが、重度化した場合や終末期のあり方についての指針が整備されていない。	○	重度化や終末期に際してのケアのあり方は、ホームを中心にできるだけ早い時期から利用者、家族、医師等で対応の確認が必要である。ホームが対応しうる最大の支援の具体的方策について書式にまとめ、職員の共有方法など、早い時期に整備の検討を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや自尊心を損ねることのないような声かけや対応を心がけている。個人情報・各種書類の保管・管理についてもプライバシー保護のための対応がなされている。写真の添付や記名等についても同意が確認されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが強制することなく、職員は一人ひとりを尊重し、楽しみごとや希望、生活歴を大切にしながら、その人らしい生活が送れるように支援している。		

東川町 グループホーム プランタン東川

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	系列ホーム全体の献立を基本に、利用者の好みや希望を取り入れながら、メニューを作成している。食事の準備・調理・食事・後片付けなども一緒に行ない、ホーム内で収穫された野菜も盛り込まれ、食事が楽しみの一つとなる支援が行なわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回の曜日は決められているが、希望によっては毎日入浴出来るようになっている。利用者が、ゆったりと寛いで入浴できるよう支援している。状況に合わせて、シャワー浴や清拭もさりげない声かけで行なわれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の持てる力を活かせるように、役割や趣味の手芸、プランター菜園の手入れなど、楽しみに係われる支援をしている。また、利用者は地域の福祉専門学校で週に一度開催されている「うるおいレク」への訪問を楽しみにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物・散歩・ドライブなど、利用者の希望に応じた外出支援を行なっている。季節が感じられる近隣への観光や、外食などにも出かけている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を十分理解しているが、利用者の安全を第一に日中も施錠している。ホーム前の交通量の激しいことや、建物の構造上職員から死角になる事などを考え、施錠となっている。今後のケアのあり方について検討となっている。		

東川町 グループホーム プランタン東川

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の緊急マニュアルも整備されており、年2回消防署の協力で避難訓練を行なっている。運営推進会議の場を活用して、緊急時に地域からの協力がいただけるような関係作りが現在検討中である。	○	利用者の安全を確実なものとするために、利用者一人ひとりの具体的な避難誘導策などを検討し、日中、夜間を想定した避難訓練など、不測に備える取り組みが望まれる。地域の協力体制整備と指定の緊急避難場所を家族に通知なども期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量を一人ひとりについて記録しており、健康管理に気をつけている。栄養士により、メニュー内容やカロリー計算も年間を通じて適宜行なわれている。身体状況や、状態に合わせた食事内容の支援も行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファや椅子が多く設置され、利用者は思い思いの場所で過ごせる空間となっている。利用者にとって快適な居場所作りに配慮され、気になる臭いもなく、光・温度・湿度も適宜調節され、一日を過ごす憩いの場となるよう工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者にとって使い慣れた家具やベット、寝具が持ち込まれ、利用者が安心して暮らせるような工夫をしている。畳の仕様もあり、利用者の状態に合わせた空間となっている。装飾により、精神的負担を軽減できるよう配慮がなされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。